

7. 河川空間の利用状況

河川の利用は、堰などの河川構造物が少なく、上流から下流までカヌー等で下ることができることから水面利用が多く、「北上川ゴムボート川下り大会」や「北上川流域交流Eボート大会」「舟ッコ流し」等、レクリエーションの場として利用されている。

特徴的な河岸であるイギリス海岸や「日本のさくら名所百選」に選ばれた展勝地があり、多くの観光客が集まる。狭窄部ではモクズガニ漁が行われており、「かにぱっと」等の伝統料理が存在する。下流部では登米大橋付近の河川堤防沿い約 1km が桜のトンネルとなり地域住民に親しまれている他、北上大堰から下流では一面に広がるヨシ原で現在でもヨシ刈や火入れが行われ、また、シジミ漁も盛んである。旧北上川では石巻に港の礎を築いた川村孫兵衛に対する報恩感謝祭り「石巻川開き祭り」が毎年開催され、また中瀬には漫画家石ノ森章太郎の「石ノ森萬画館」が開園するなど、石巻市の地域文化の発信拠点・市民交流の場になっている。

江合川では涌谷城下の河川敷において、戦前からの伝統を伝える「東北^{ばんば}靱馬競技大会」が桜祭りとともに毎年開催され東北の風物詩となっている。

この他、沿川各所では、花火大会やマラソン大会、川下り大会等が開催されており、多くの人々が北上川を利用している状況にある。

7-1 河川敷の利用状況

(1) 河川の利用概要

北上川における河川の利用者数は年間約398万人である。利用形態別では、散策等の割合が最も多く、次いでスポーツ、水遊び、釣りとなっている。

利用場所では、高水敷利用の割合が最も多く、次に堤防、水際、水面となっている。

利用形態別に見ると、散策等が最も多くなっているが、これは春先の桜の開花時期に行楽客で北上川上流の桜の名所（北上市展勝地等）が賑わうためである。沿川市町村人口からみた1人当たりの年間利用回数は、約3回である。



図 7-1 北上川の河川の利用形態・利用場所

(2) 河川敷の利用状況



写真上：展勝地公園でのバーベキュー
写真下：いものこ会（磐井川河川敷）
出典：岩手河川国道事務所資料

北上川の河川敷には市街地周辺で運動場や公園が整備されている他、堤防等を利用したサイクリングロードが整備されている区域もあり、多くの方に活用されている。

北上川の河川敷利用として最も多くの人が集まる公園は、北上市の展勝地公園である。展勝地公園は桜の名所として有名であるほか、遊歩道、サイクリングロードなどもあり、一年を通して楽しむことができる。

また、高水敷ではバーベキューやいものこ会（芋煮会）で行われており、地域住民のレクリエーションの場となっている。

その他の河川公園でも花見や花火大会、散策などに利用され、人々の憩いの場となっている。

【展勝地公園】岩手県北上市

北上市の展勝地公園は北上川と和賀川の合流点の氾濫原に開設された運動公園であり、「桜の名所 100 選」に選ばれたソメイヨシノの桜並木は地元の先覚者・沢藤幸治^{さわふじこうじ}の発案によって植林されたものである。珊瑚橋^{さんご}のたもとから続く約 2km の桜並木^{さくら}の他、園内の 1 万本の桜と 10 万本のツツジがあり、訪れる人々の目を喜ばせる。

また、南部藩の米蔵を模したレストハウス、北上夜曲の歌碑、北上川の入江には復元された南部藩船の大型帆船「ひらた船」、古民家や商家、武家屋敷など歴史的建造物約 30 棟を移築復元した「みちのく民俗村」、「サトウハチロー記念館」、「利根山光人記念美術館^{とねやまこうじん}」、遊歩道、サイクリングロードなどもあり、冬季には白鳥も飛来するなど一年を通して楽しめる。展勝地公園の南側に位置する前九年の役^{じんがわか}の古戦場・陣ヶ丘からは、奥羽山脈の山並みを背景に北上川と北上市の市街地を一望することができる。

【出典：岩手県HP】



【出典：岩手河川国道事務所資料】



写真上：満開の桜並木
写真下：復元した大型帆船「ひらた船（天竜丸）」

7-2 ダム湖の利用状況

(1) 御所ダムの利用状況

「平成 15 年度ダム湖利用実態調査」結果によれば、御所ダムは年間 101 万人の利用があったと推定され、全国第 2 位の利用者数となっている。前回の平成 12 年度調査で 89 万 2 千人の年間利用者と推定され、今回はそれを約 12 万人も上回る調査結果となった。

利用状況を形態別に見ると、ダム周辺の「手づくり村」「ファミリーランド」「のりもの広場」「ごしょこものしり館」等の施設利用者が約 71 万人、「御所湖まつり」等のイベントに約 19 万人となっている。



賑わいのファミリーランド(ジャブジャブ池)

【出典：北上川ダム統合管理事務所 HP】

(2) 田瀬ダムの利用状況

環境の保全や親水性のある環境の創造のため、「田瀬ダム周辺環境整備事業」によりダム湖周辺の整備が行われ、さらに、「ダム湖活用促進事業(レイクリゾート事業)」を昭和 63 年度に創設、田瀬ダムが第 1 号に採択された。「田瀬ダムレイクリゾート事業」では、展望台、釣り公園、ヨットハーバー、広場、オートキャンプ場や渡河施設等の整備を実施している。



田瀬湖湖水まつり

写真上：親子釣り大会

写真下：ウォータースポーツ フィステイバル

【出典：北上川ダム統合管理事務所 HP】

平成 15 年度 年間利用形態別ベスト 10

順位	総計	利用形態別内訳							イベント
		スポーツ	釣り	ボート	散策	野外活動	施設利用	その他	
1	宮ヶ瀬ダム (1,348)	天ヶ瀬ダム (169)	布目ダム (61)	宮ヶ瀬ダム (23)	宮ヶ瀬ダム (510)	金山ダム (286)	御所ダム (709)	宮ヶ瀬ダム (536)	宮ヶ瀬ダム (523)
2	御所ダム (1,013)	滝里ダム (64)	下久保ダム (57)	金山ダム (13)	七ヶ宿ダム (256)	日吉ダム (124)	三春ダム (298)	御所ダム (193)	御所ダム (193)
3	金山ダム (728)	土師ダム (54)	日吉ダム (40)	浦山ダム (7)	鶴田ダム (177)	真名川ダム (78)	岩屋ダム (276)	金山ダム (175)	釜房ダム (50)
4	日吉ダム (534)	緑川ダム (43)	高山ダム (29)	竜門ダム (5)	桂沢ダム (168)	八田原ダム (73)	草木ダム (266)	釜房ダム (95)	新宮ダム (50)
5	三春ダム (434)	美利河ダム (41)	弥栄ダム (26)	滝里ダム (5)	金山ダム (146)	天ヶ瀬ダム (65)	白川ダム (220)	日吉ダム (93)	湯田ダム (44)
6	草木ダム (432)	二風谷ダム (38)	一庫ダム (21)	下久保ダム (5)	漁川ダム (130)	弥栄ダム (65)	釜房ダム (214)	温井ダム (78)	天ヶ瀬ダム (36)
7	釜房ダム (395)	弥栄ダム (37)	釜房ダム (20)	相俣ダム (3)	一庫ダム (128)	二風谷ダム (62)	宮ヶ瀬ダム (209)	新宮ダム (53)	緑川ダム (34)
8	天ヶ瀬ダム (351)	高山ダム (34)	三春ダム (20)	湯田ダム (3)	浅瀬石川ダム (115)	一庫ダム (60)	日吉ダム (204)	弥栄ダム (52)	田瀬ダム (33)
9	白川ダム (350)	宮ヶ瀬ダム (31)	天ヶ瀬ダム (19)	九頭竜ダム (2)	草木ダム (110)	緑川ダム (42)	野村ダム (164)	五十里ダム (49)	金山ダム (26)
10	七ヶ宿ダム (346)	湯田ダム (28)	田瀬ダム (17)	土師ダム (2)	手取川ダム (100)	島地川ダム (32)	寺内ダム (110)	湯田ダム (43)	鶴田ダム (26)
平均	141	10	7	1	46	15	41	22	13
合計	13,853	983	702	87	4,502	1,434	4,008	2,137	1,319

注 1) 数値は年間利用者数(単位:千人)

注 2) 平均と合計は全調査対象ダム(98ダム)における統計値

【出典：平成 15 年度 河川水辺の国勢調査】

7-3 河川の利用状況

(1) 舟運

北上川は平安時代の安倍氏や平泉・藤原氏の交易にも利用されるなど、古くからの物資輸送の大動脈であった。本格的に舟運が利用されるようになった藩政時代には、盛岡藩と仙台藩の廻米輸送路として重要な役割を担った。盛岡藩の場合、江戸初期には宮古や大槌といった閉伊地方の各湊から送られていたが、17世紀半ば以降は、盛岡の新山河岸(明治橋付近)から郡山(紫波町)、花巻を経て藩領南端の黒沢尻河岸(北上市)までは小型の小繰船を利用、黒沢尻で大型のひらた船に積み換えて石巻湊(宮城県石巻市)まで荷を運び、石巻から江戸までは千石船により海路が利用された。多くの舟が行き来した北上川の舟運であるが、明治時代になって川蒸気船が就航し、一時は藩政時代以上の活況を見せた。明治24(1891)年に東北本線が開通して鉄道が大きな役割を果たすなど輸送のしくみが変化し、川を賑わせた舟運はしだいにその数が少なくなっていった。なお、北上市にある展勝地公園にはひらた船が復元されている。

【出典：北上川下流河川事務所資料】



写真 川蒸気船「岩手丸」

【出典：岩手県 HP】



写真 復元されたひらた船

【出典：岩手河川国道事務所資料】



図 7-2 北上川歴史回廊構想 位置図

近年では舟運時代の歴史に着目し、新たな地域交流を目指した「東日本水回廊構想」がたてられ、これを受けて、舟運復活に向けての船着き場などの水辺拠点整備や、流域沿河市町村間の交流支援等により地域づくりや活性化を推進している。また奥州藤原文化の柳の御所遺跡、船着き場、イギリス海岸をはじめ歴史的・文化的遺産を活用した「北上川歴史回廊構想」があり、水辺プラザを中心に河川周辺整備を含め、それらを積極的に結びつけるネットワークを形成する。この他、盛岡市の「北上川ゴムボート川下り大会」や川崎村(現在 一関市)で「北上川流域交流Eボート大会」が開催されるなど活発な水面利用が行われている。

(2) 内水面漁業

北上川における内水面漁業の漁業権設定状況は、図 7-3 のとおりである。

北上川は、盛岡市玉山区の松川合流点から宮城県境まで漁業権が設定されていない、全国でもまれな河川である。

北上川は、アユ・ウグイ、サケ・マス等、数多くの魚種が生息する淡水魚の宝庫であったが、昭和初期に建設された犇波・脇谷洗堰および飯野川可動堰によって魚類の遡上に影響を及ぼし、また松尾鉾山の排水によって魚類の生息環境が悪化し、昭和 40 年代には魚類が生息できない川となってしまった。このような経緯から、松川合流点から宮城県境まで漁業権が設定されていない状況にある。

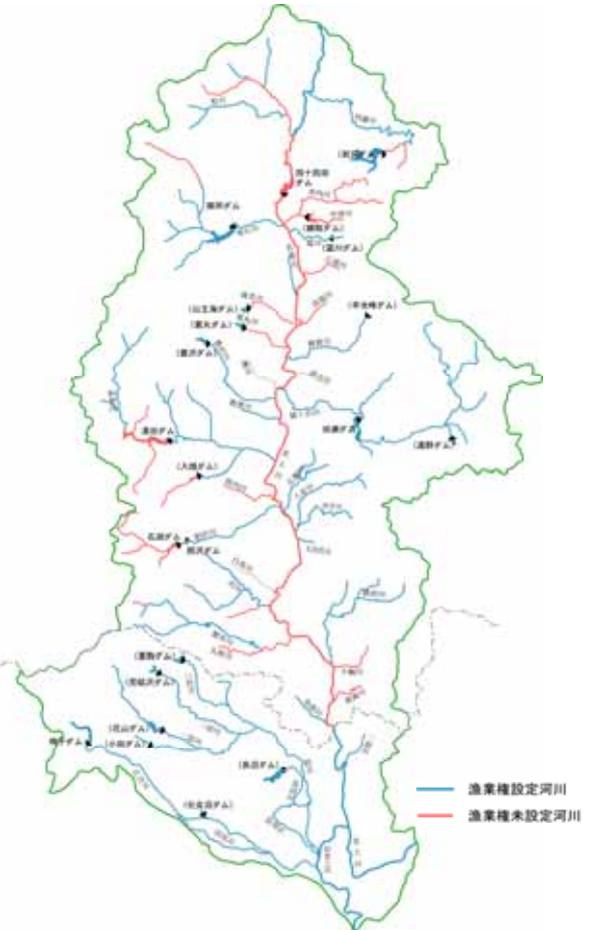


表 7-1 北上川における内水面漁業

漁協の名称	対象魚種	備考：概況状況(ヒアリング等より)
上北上川漁業協同組合	アユ、ヤマメ、イワナ、ウグイ、ウナギ、コイ、フナ、カジカ	放流事業：アユ、ヤマメ、イワナ、ウナギ、コイ、フナの放流(平成13年)
栗石川漁業協同組合	アユ、ヤマメ、サクラマス、イワナ、ウグイ、コイ、フナ、ワカサギ、カジカ	組合員264名 放流事業：コイ、ワカサギ、ヤマメ、イワナ、アユ、ヘラブナ
栗石川東部漁業協同組合	アユ、ヤマメ、サクラマス、イワナ、ウグイ、ウナギ、コイ、カジカ	組合員43名(平成15年現在) 放流事業：アユ 300kg、コイ 400kg、イワナ 20kg、ヤマメ 150kg、ウナギ30kg、フナ10kg ふ化事業：サケ 15万尾前後種魚の放流、ウグイの産卵場造成 2ヶ所
国岡河川漁業協同組合	アユ、ヤマメ、サクラマス、イワナ、ウグイ、ウナギ、コイ、フナ、ワカサギ、カジカ	組合員204名(平成15年現在) 放流事業：稚魚成流アユ、ヤマメ、イワナ、ウナギ、サケ(繁殖保護のため) ふ化事業：サケの人工ふ化
神賀川漁業協同組合	アユ、ヤマメ、サクラマス、イワナ、ウグイ、ウナギ、カジカ	組合員343名(平成15年現在) 放流事業：アユ 1,300kg、ヤマメ 900kg、イワナ 100kg、ウナギ 30kg、コイ 50kg ふ化事業：サケ
栗ヶ石川漁業協同組合	アユ、ヤマメ、サクラマス、イワナ、ウグイ、ウナギ、コイ、フナ、ワカサギ、カジカ	放流事業：アユ、ヤマメ、イワナ、ウナギ、コイ(平成7年)
上栗ヶ石川漁業協同組合	アユ、ヤマメ、サクラマス、イワナ、ウグイ、ウナギ、コイ、フナ、ワカサギ、カジカ	
西和賀淡水漁業協同組合	アユ、ヤマメ、イワナ、ウグイ、カジカ	組合員66名(平成15年現在) 放流事業：アユ 500kg、イワナ 65kg、ヤマメ 130kg(稚魚) ふ化事業：サケ 約15匹、ウグイ産卵場作り、カジカ産卵場作り
和賀川淡水漁業協同組合	アユ、ヤマメ、イワナ、ウグイ、カジカ	組合員175名(平成15年現在) 放流事業：アユ、ヤマメ、イワナ、ウナギ
飯江河川漁業協同組合	アユ、ヤマメ、サクラマス、イワナ、ウグイ、ウナギ、コイ、カジカ	組合員220名(平成15年現在) 放流事業：アユ、ヤマメ、ウナギ、コイ、サケ ふ化事業：サケ
藤井川上流漁業協同組合	ヤマメ、イワナ、ウグイ	
鹿丸川サケマス増殖組合		組合員19名(平成16年現在) 放流事業：毎年、2月魚定で約10,000匹(前後)を鹿丸川に放流 ふ化事業：組合員15名を3期に分けて、捕獲、ふ化事業をしている
北上川漁業協同組合	アユ、コイ、フナ、ウグイ、ウナギ、ワカサギ、オイカワ、ソウギョ、ニジマス、ヤマメ、イワナ、サケ	放流・ふ化事業：サケ
北上遠流漁業協同組合	アユ、コイ、フナ、ウグイ、ウナギ、ワカサギ、オイカワ、ソウギョ、ニジマス、ヤマメ、イワナ、サケ	放流・ふ化事業：サケ
江合川漁業協同組合	アユ、コイ、フナ、ウグイ、ウナギ、オイカワ、ニジマス、ヤマメ、イワナ、カジカ	放流事業：アユ

図 7-3 内水面漁業権設定 位置図

平成 13 年の漁獲量を見ると、岩手県は 158t、宮城県で 306t であり、合計で 464t の漁獲量がある。北上川の河口を持つ宮城県側では漁獲量が多く、下表の魚類に加えてしじみが 200t、天然種苗としてあゆを 2t 収穫している。また、岩手県側ではモクズガニ漁も行われている。

漁獲量は 30 年前に比べると 10 倍以上に増加しており、稚魚の放流を盛んに行ったことと、北上川の水質が改善されてよりよい水環境に回復したことが要因として挙げられる。

表 7-2 北上川における内水面漁業 漁獲量(H13)

	さく河性		陸封性		わかさぎ	あゆ	こい	ふな	うぐい	うなぎ	その他	合計
	さく・ます	さく・ます	やまめ	いわな								
岩手県	39t	18t	11t	2t	1t	48t	5t	2t	30t	1t	1t	158t
宮城県	205t	2t	3t	1t	-	6t	6t	6t	43t	2t	32t	306t
合計	244t	20t	14t	3t	1t	54t	11t	8t	73t	3t	33t	464t

出典：岩手県統計年鑑，宮城県統計年鑑

【モクズガニ（郷土料理「かにぱっと」）】

北上川の狭窄区間とこの区間に流入する砂鉄川、千厩川等にはモクズガニが生息し、昔からカニ漁がなされ、モクズガニで出しを取ったスープで野菜やスイトンを煮込んだ郷土料理「かにぱっと」等として親しまれている。

川崎村（現在 一関市）では、村役場や民間人からなる「NPO 法人 北上川流域河川生態系保全協会」を設立し、世界で初といわれるモクズガニの養殖に成功、河川への放流や地元「道の駅」での販売の他、全国への販売、養殖技術の伝授も行われている。

また、近隣市町村の小学生による放流など、小中学校の総合的な学習への協力や、河川環境に関する学習会の実施も行われている。



モクズガニ

【シジミ漁】

北上大堰から河口にかけては河川を流下する淡水と河口から遡上する塩水が入り混じった汽水域となっており、ほぼ全域でヤマトシジミが生息している。北上川のヤマトシジミは「ベッコウシジミ」と呼ばれ、北上川河口域の特産となっており、6月から11月までの漁期中、地元漁協によってシジミ漁が盛んに行われている。

現在ではほとんどが動力船でジョレンと呼ばれるカゴ網を曳航しての底引き漁が主体となっており、近年では年間150t～200tの水揚げがあるほか、一部では蓄用したシジミの放流が行われるなど重要な水産資源ともなっている。



シジミの漁場となっている区間の状況